

「成果発表会」

1



INAX大阪集合。

2



前回の研修会のふりかえり。

3



プロジェクトブックを味わう。

4



プロジェクトブックの説明。

5



プロジェクトブックに対する思い。
(研修会メンバーより)

6



プロジェクトブックに対する思い。
(講師より)

ついに最終日

「探られる島」プロジェクトもついに最終日を迎えました。10月8日の初日から2ヶ月間、苦楽を共にしてきたメンバーが再びINAX大阪の会議室に集合しました。前回の「冊子編集会議」から、プロジェクトのホームページやメーリングリストで成果の取りまとめについて議論を行ってきました。今回は、その成果である「プロジェクトブック」（試作版）を発表する場となり、これまでお世話になった山崎さん、清水さん、伊藤さんの講師陣や、まちづくり研修会メンバーも会場にお越しいただきました。(1) (2)

プロジェクトブックの発表

今回の成果であるプロジェクトブックの試作版が参加者に配られ、事務局から内容説明が行われました。今回のプロジェクトの成果をまとめた冊子として、一般的な観光客にアピールするようなガイドブック的なものではなく、あくまで島の外部の若者の視点からいえしまの魅力や可能性を探った内容としたことが表明されました。コンセプトは「お邪魔したくなる島」ということで、参加者が普段生活している都会と比較しながら、いえしまの《生活感》のある要素を集めてまとめ、今後のいえしまの観光のあり方などについて述べる内容としました。また、プロジェクトブックの活用法については、参加者が今後の探られる島プロジェクトへの輪を広げ、いえしまに関わる若者を増やすためのツールとして使うが提案されました。(3) (4)

プロジェクトブックについての意見交換

プロジェクトブックについて研修会メンバーからは「イメージしていたものと違って驚いた」「家島の風景の写真がもっとあっても良いのでは?」といった意見がありました。講師陣からは「すでにある家島のガイドブックと被るようなものでなくて良かった」といった感想や、「プロジェクトブックの目指すべきことをもっと明確にする必要がある」「表紙からもっとインパクトを与えるべき」「プロジェクトブックを活用した今後の取組みが重要になる」などの指摘をいただきました。(5) (6) (7) (8)

プロジェクト2005を振り返って

7日間の締めくくりとして、今回のプロジェクト全体を振り返って感想を述べあいました。参加者からは「多くの仲間と知り合うことができて良かった」「運営などが参考になった」「島のひととの視点の違いが発見できて面白かった」「次回も参加したい」といった感想があり、研修会メンバーからは「今回の参加者には家島のサポーターになってもらいたい」「島外の人とのコミュニケーションの必要性を感じた」という意見がありました。また、講師からは「家島の中と外をつなぐことを考えていく必要がある」「今回の参加者は家島にとって財産であり、今後新たな仲間を連れて来るようにする必要がある」といったアドバイスをいただきました。(9) (10)

これからの「探られる島」について

全7日間のプログラムは終了となりましたが、プロジェクト自体は終わったわけではありません。プロジェクトブックについては、本日いただいた様々な意見を参考に修正作業を行って上げていくことが必要となります。また「探られる島」は今後一層プロジェクトの輪を広げながら、第2回、第3回と継続していくことも確認されました。今回の参加者がいえしまの外で、研修会メンバーがいえしまの中で、新たな仲間を増やし、プロジェクトが成長していくことが期待されます。(11) (12)

7



車座にてディスカッション①。

8



車座にてディスカッション②。

9



いえしまで学んだこと①。
(参加者より)

10



いえしまで学んだこと②。
(参加者より)

11



全体で記念撮影。

12



おうち系カフェにて打ち上げ。